

受験まであと 1 か月半の間に何をどう勉強すればよいのか

- 受験直前の心構え -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 大学入試のセンター試験が終わり、これからが本番という受験生の方も多いことでしょう。高校受験に関しては、栃木県では県立高校を第一志望にしている方が多いと思います。多くの受験生の皆さんは既に私立高校の入試を終え、2 月にある小山高専(国立工業高等専門学校)や 3 月の県立高校入試に備える時期になりました。
3. この時期に何をしたらよいかについて、今日はお話をさせていただきます。明日 24 日の下野新聞「林明夫塾長の必勝受験塾中 3 生指南」のコーナーにも同様の内容を書かせていただきましたので、こちらもぜひ読んでいただければありがたいです。
4. 高専や県立高校入試に備えるこの時期の勉強で一番大事なものは、「実際の入試にどのような問題が出題されるのかを把握すること」です。私立高校や大学などの入試でも同じですが、「その学校の入試で過去にどのような問題が出題されたかを知ること」は受験する上でとても重要になります。そのためには、「過去問(過去に一度出題された問題)を最低でも 5 年分、できれば 10 年分ぐらい制限時間内に解いてみること」が一番です。
5. では、過去問を解いたら次にどうすればよいのでしょうか。科目によって違いがあるかもしれませんが、実際に解いてみると正解がスラスラ出せる問題となかなか出せない問題とがあることがわかるとと思います。「スラスラ正解できる問題は何で、なかなか正解を出せない問題は何かを科目ごとにはっきり自覚すること」、これが次にすべき大事なことです。
6. スラスラ正解が出せる問題で注意することは、「ケアレス・ミス(うっかりミス)をなくすこと」です。これをしないで確実に点数が取れるようにするためには、「同じ問題を 5 ~ 6 回やり直すこと」です。「5 年から 10 年分の過去問の中からスラスラ解ける問題を探し出し、その問題を 5 ~ 6 回やり直す」と、類似の問題は完璧にできるようになります。

7. 「なかなか正解が出せない問題は、まず原因を明らかにすること」が大事です。「もし基本的なことがわかっていなくて解けなかったのであれば、基本に戻って教科書や参考書を丁寧にやり直しましょう。」教科書には細かい説明があまり書いてありませんので、「教科書をやってもわからない問題は参考書や辞書を使って「うん、なるほど」と理解できるまで勉強し直して下さい。」
8. 応用問題が解けなかったのであれば、まずは「やさしい応用問題を焦らずに解いてみること」がコツです。
9. 県立高校入試までは2か月弱ありますので、勉強をやり直すことはいくらでも可能です。ただし、やり方がとても大事で、「基本的なことがわかっていない場合は教科書・参考書などで丁寧にやり直しをし、応用問題に手がでない場合はやさしい応用問題から焦らずに解いていく」とよいです。
10. 出題形式を知っておくことも大事です。私立高校入試はマークシートを使って解答するところが多いですが、県立高校入試では記述式といって書いて解答します。
11. 記述式試験の対策には、教科書にあるような基本的な内容を十分理解した上で、楷書(かいしょ、教科書の書体)で書けるようになるまで書き取り練習をすることが一番です。「受験前の忙しい時期にそんな練習をする暇はないよ」という方がいるかもしれませんが、教科書の書体で採点者が読めるような正確な字が書けなければ点数になりませんので、ぜひ書き取り練習をして下さい。「大切な語句は、定義(「～は…だ」ということばの意味)をよく理解した上で正確に書けるようになるまで書き取り練習をすること」が大事です。基礎的なことですが、これはどの科目にもいえることです。
12. 大事なことの最後は、受験生としての自覚を持つことです。「何のために受験勉強をするのか」「何のために生きるのか」「何のために仕事をするのか」「高校や大学に行って何を学ぶのか」などについて、自分の力で絶えず考え続けると、受験生としての自覚が深まります。
13. 自分のやっていることの意味がわからなければ、激しい勉強はできません。また、積極的な行動を起こすこともできません。ですから、ぜひ何のために勉強をするのか・生きるのか、進学して何を学ぶのかを自分の力で絶えず考えて自覚を深めていただくとありがたいです。
14. 自分は受験生であるという受験生としての自覚が深まれば深まるほど集中力が身に付きますので、先ほど紹介した勉強が短期間でできるようになります。あと2か月ほどですので、身体に気をつけながら勉強に励んでいただきたいと思います。